



『あいさつ』について

東京スカイツリーがついに開業しました。スカイツリーは南北にやや細長い墨田区のほぼ中央部にありますが、筆者の住まいは同じ墨田区でも南端に近く、直線で3キロほど離れています。それでも家を出て1分も歩けば、ビル越しに先端部を見ることができます。都内に限らず、千葉県や埼玉県にお住まいの方でも、スカイツリーが自宅や職場から見えるという方は多いと思いますが、それはひとえに 634メートルという、建造物としては並ぶもののない高さがあるからです。

スカイツリーはそこに立っているだけで目立ちますが、人間はそうはいきません。旧知の相手なら、100メートル先からでも見分けることが可能かも知れませんが、初対面の相手には、よほど奇抜な服装でもしない限り、なかなか見つけてもらえないでしょう。人が自分を主張するには、言葉や文字はもちろん、身振り手振りも含めたコミュニケーションによるほかありません。

コミュニケーションの基本の最初は『あいさつ』です。フェイスツーフェイスで会ったときだけでなく、電話やメールによるコミュニケーションでも、いきなり用件ではなく最初にあいさつの言葉があります。

『あいさつ』は漢字で『挨拶』と書きます。漢和辞典で調べると、『挨』には「推す」「近づく、迫る」という意味があり、『拶』には「圧力をかける」「迫る」という意味があるそうです。両方を合わせた『挨拶』の意味は、①人々が押し合い、へし合いするさま ②禅僧が相手の境地を試みるためにさぐりの問いをしかけること ③人と交わす儀礼的な言葉や動作 となっています(三省堂『漢字海』より)。

つまり、こちらから相手に近づいて、発信することを指しています。

「うちの職場の若手はあいさつができなくて…」といって嘆く管理職の声を聞くこともありますが、そういう方には「ご自分から率先してあいさつをしたらどうでしょうか。最初は返事が返ってこなくても、毎日続けるうちに、そのうち、若手が率先して『おはようございます！』などあいさつをするようになりますよ。」と答えています。

2012年5月23日

住田 俊二

[著者ホームページ\(夢をカナエルHP\)へ](#)

